

「現代政治の理論と実際：社会科学系好コラム」 選出4本!!

核廃絶の矛盾

2017年7月、日本は核兵器禁止条約の交渉会議で不参加の立場をとった。日本は核兵器とミサイル開発を続ける北朝鮮を不参加の理由として挙げた▼しかし違う理由も考えられる。この条文に核の使用、開発などの禁止事項を行う企業などへの援助を禁止すると記述されていた。これは日本がアメリカの核の使用や開発への援助の禁止を意味する。もし日本がこの条約を結ぶなら、日本はアメリカの核の傘から抜け出さなければならなくなる。つまり現在の日米関係を見直さなければならない。このことから日本はアメリカへの配慮により核兵器禁止条約の交渉会議に不参加の立場をとったと考えられる▼日本で約37万人が原爆によって命を落とし、多くの人々が被爆により後遺症を患った。唯一の被爆国として核兵器廃絶を先導すべき日本が不参加の立場をとったという矛盾に対して疑問を抱かなければいけない▼また核兵器禁止条約会議に5核保有国が不参加だった件に注目したい。小国は核を作る技術を持つことが出来ないゆえに、大国は核を独占できるため核を保有し続けたいのだろう。表舞台では核廃絶を目指すと言いつつ、行動しない各国に、将来の子供たちのためにも核兵器廃絶を、と訴えかけたい。▼我々は事実の裏側にある真理を知り疑問を抱くべきだ。なぜ北朝鮮のみに、核保有の禁止を求めるのか。なぜ大国は核の保有を法的に許可されているのか。核兵器を全面廃絶できない裏側には多くの国の思惑が隠されている。確かに自国の安全面などを考えると核抑止は必要な考えかもしれない。しかし全人類の幸せという点で、核兵器は必要ない。核に対する価値観について我々はもう一度考え直すべきだ。

「現代政治の理論と実際：社会科学系好コラム」選出4本!!

ネットと活字離れ

「活字離れが進んでいる」この言葉は最近よく耳にする言葉だ。特にその言葉は大人から私たちのような若者に向けて発せられるのだ。しかし、考えてみてほしい。現代の若者は本当に活字離れをしているのだろうか。私はしていないと思う▼確かに一昔前より本や新聞を読まない人が増えているのは事実だ。しかし、その事実だけを見て現代の若者は活字離れをしていると考えるのは筋違いだと私は思う。なぜなら、今の時代は電子書籍やパソコン、スマホなどの電子媒体が溢れている世界で数千冊の本を持ち歩いたり、ボタンを押すだけ地球の裏側で起きていることがリアルタイムでわかったりする。そんな世界において電子書籍で本を読んだり、スマホでニュースを見たりすることは一般的に行われていることである。私自身もよくスマホでニュースを見ている。電子媒体を通して見ている字は活字ではないというのであれば確かに活字離れをしているかもしれないが、そんなことはない。もしそんなことを言う人がいれば、それはその人のただの意地や嫉妬である▼時代の流れに合わせて活字というものに触れる形が変わるのは決して悪いことではなく、むしろ普通のことである。私は決して本や新聞は読む必要もなく、なくなってもいいものであると言っているわけではなく、それにこだわる必要はないと言っているだけだ▼そして、このようなことは活字離れの話だけに当てはまる話ではなく、数多くのことに当てはまる。きっとあなたの身近なところにもあるはずだ。その中で共通していることは昔からあるものにこだわることなく時代に合わせて新たなものも取り入れることが大切だということだ。

「現代政治の理論と実際：社会科学系好コラム」選出4本!!

日本の死に金

「投資信託」というものを聞いたことがあるだろうか。投資信託とは、投資家から集めたお金をひとつの大きな資金としてまとめ、投資のプロが運用し、利益が出たら配当がもらえるというもの。投資信託は株とは違って知識がなくても出資ができるため、毎日の株価の変動に煩わしさを覚えることもない。また、株は100株単位で取引されるため、初期投資が大きく、ためらう人もいるが、投資信託では少ないお金で気軽に始められる▼欧米では予備知識を必要とせず、ローリスクの運用法として投資信託は人気が高い。しかし、なぜ日本では流行らないのだろうか。その原因は、認知度の低さにあると思う。欧米では学生の頃から金融の授業を受け、自らの資産を将来に向けてどう運用するか考えている。一方日本では金融に対する考えが甘く、バブル時代の狂乱的な株の運用に対する失敗から、運用はリスクが高いという偏見が国民に根付いているようにさえ思える▼私はこの日本の運用に対する考え方を変えたい。昨今のマイナス金利の時代、預金をしていてもお金はほとんど増えない。それにも関わらず、2017年6月には日本人の預金総額は過去最高の1053兆円に達した。預金は銀行の貸し出し原資だが、ほとんどは実際に運用されることのない、日本の回らぬ経済を象徴する「死に金」となっている▼だが、国民のほとんどはこの実態を知らない。もしこの預金が投資に回れば、国の経済は大幅に改善されるだろう。自分一人で大金を投資しろとは言わない。そのための投資信託だ。だが覚えておいてほしい。あなたの死に金が運用されることが、日本経済再建の第一歩なのだ。

「現代政治の理論と実際：社会科学系好コラム」選出4本!!

「理解」の復興を

異質な機械が赤い数字を示す横で、楽しそうに遊んでいる子供達の姿。福島県の公園では、見慣れた光景だ。“リアルタイム線量計”なるものが常に空間の放射線量率を監視し表示しているのだ。県内の学校、公園等に約3100台設置され、物々しい雰囲気だ▼震災から7年が経とうとしている現在も、福島の復興は叫ばれている。では、復興とは何か。何を達成すれば復興したと言えるのか。これらの疑問は震災後、常に県民にまとりついた悩みの種だ▼大学進学を機に、福島県を出て一人暮らしを始めた。福島県の状況について報じているニュースの少なさに衝撃を覚えた。福島原発に問題が起きれば、大々的に報道される。その裏で、必死に風評被害と戦っている生産者が影に隠される。少しの報道でも風評の程度は大きく変わる。依然、生産者は不安定なままだ▼県内の復興は着々と進み、以前の生活を取り戻したかのように見える。そこに生まれた新しい問題は、県外との理解の差だ。未だに線量計が県内のあちこちに設置されている状況は、全国でどれだけ認知されているのか。いわれのない風評被害で苦しむ人々の悲痛の念はどこまで届いているのか。正しい知識を待たないために風評は起る。“復興”という言葉に甘えて、現実から目を反らす気運が立ち込めている▼3月になると被災地の復興を掲げた震災特集が風物詩のように流れ始める。被災地の非日常にだけ注目し、地味な日常には目もくれない▼現在、福島ブランド米が飼料米に回されている。人々に知識があれば防げる問題だ▼知ろうとしない人々を変え、福島の“今”を伝える。このことが、「理解」の復興の第一歩だ。